

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 障害について、その特徴や子どもに対する理解の重要性について学ぶことができました。私が働く児童クラブにも、そのような子どもが数人いるので、今回学んだことを活かし、それぞれの子どもにあった支援や対応をしていきたいと思います。否定的な評価や叱責などを見かけたら、理解することや寄り添うことの大切さを伝えていきたいです。
- ◆ 身体障害に比べて精神障害は分かりにくいこともあり、特にグレーゾーンにいる子どもの支援はどうしたらよいのか自分なりに考え、取り組んではいましたが、今回の研修でこんな場合はどうしたらいいのかという対応方法を学ばせてもらいました。今後の支援のあり方を考える参考にしたいと思います。
- ◆ 障害観について、「～しかできない」というマイナスイメージから「～があれば～できる」という周囲からの捉え方に変化があることを学んだ。具体的な障害の症状からは、禁止や制止しがちなところを肯定的表現で進め、みんなに伝わるやさしい伝え方を心がけるようにしていくことを学んだ。そのためにも周囲からの合理的配慮や適切な支援が必要であり、社会参加し充実した生活を送れるように支援していきたい。
- ◆ 「～しかできない」子どものマイナスイメージが周囲の理解と支援、環境によって「～があれば～ができる」に変化している。医師によって障害と診断された子の特徴・特性・症状・対応例を詳しく教えていただきました。マズローの欲求の5段階説は、安全で安心できる信頼関係があることが何よりもベースになるので、自己肯定感を高く持ってもらい、自分が好きで自分を大切にしようとする子どもに目を向け理解していきたいです。
- ◆ 一口に障害のある子といっても、種類も重さも違っていて、もちろんすべての児童に対して一人ひとりに合った支援を考えて行っていきたいと常に思っているのですが、支援員だけではなく周囲の理解も必要になってくるだろうと思いました。生活しやすい、楽しい児童クラブづくりをするために、障害の種類や必要と考える支援、環境をクラブ内で常に共有していきたいと思いました。